

優 良 賞

直前のスローモーション

奈良市立富雄第三中学校 一年 佐藤 花

「何でそんなこと言うの」そんな友達の言葉に私は、「またやってしまった」と心の中で思うのです。そう、私の弱い部分は考えたことをすぐに言葉にしてしまうこと。よく話している相手を傷つけるような事を言ってしまい、相手を不快な気持ちにさせてしまいます。「なぜあんなことを言ってしまったのだろう」「あの時にどう話せば、相手を不快な気持ちにさせずに、楽しく話をすることができたのだろう」といつも自分の言ったことを振り返って後悔しています。

ある道徳の授業で、『人の気持ちを察する』というテーマで物語を進めました。その物語は、テーマパークのレストランのスタッフの人が、お客さん、つまり相手の気持ちを察し、勇気を出してそのお客さんに向けて、ある行動にでるという内容の物語です。そんな物語を読んで先生は、「直前のスローモーションが大事」と言っていました。その先生が言っている直前のスローモーションの意味が分からなかったので、私はさらに集中して先生のお話を聴きました。「直前のスローモーションとは、相手の気持ちを推し量り、話す直前に、自分がスローモーションになったかのようにじっくり相手の気持ちを考えること」と、説明してくださいました。続けて先生は、「直前のスローモーションをみんなが考えられたら、いじめなんてものはなくなるし、誰も不快な気持ちになんてならない」とおっしゃっていました。そこで私は、大きな事に気がつきました。私に欠けているもの、それは、その『直前のスローモーション』だと。なんだか初めて自分の弱い部分が自分の強い部分に変わるかもしれないと思うと、少し気持ち的にも自信が持てたような気がしました。

『直前のスローモーション』のことを知って、私は、やっぱり言葉って大切で何だかすごいなと思いました。なぜなら、自分の思っていること、自分の気持ちを人に伝えることができるというとてもすてきな一面も、もちろんありますが、人の心を傷つけてしまうような一面もあるからです。私はそんな言葉の良いところと悪いところについて、その道徳の授業で学びました。

私は『直前のスローモーション』をふまえて、これから自分はどうしていきたいかを考えました。たくさん考えて自分なりに出した答えは、日ごろから『直前のスローモーション』のことを忘れずにしっかりと意識をして、相手の気持ちを察することができる人を目指すということです。ですが、そんな人になりたいと思い、すぐになれるような軽い目標ではないので、これから先、大人になるにつれてそんなすてきな人になっていけたらなと思っています。その一歩として、まず話している時の状況を理解できるようになることからはじめようと思います。一つ一つていねいに友達の話を聴けるようになると、『直前のスローモーション』を意識できる大人に近づけると思ったからです。

私はこの出来事のおかげで出会えた今の気持ちを一生大切にしようと思います。これからの未来、世界中の人々が『直前のスローモーション』のことを知り、差別や戦争をなくし、ともに共存していくことのできる社会になれば良いなと思っています。

人によってさまざまな個性があり、思っていることはばらばらですが、全ての人が相手の気持ちを察することができるような世の中になってほしいと願っています。